

西暦 2020 年 5 月 22 日

-臨床研究に関する情報および臨床研究に対するご協力をお願い-

現在、東京女子医科大学東医療センター外科では、本学で保管している診療後の診療情報等を使って、下記の研究課題を実施しています。

この研究課題で利用する診療情報等の利用については、研究対象者の方の同意が得られていませんが、本学倫理委員会によって「社会的に重要性が高い研究である」等の特段の理由が認められ、実施についての承認が得られています。この研究課題の詳細についてお知りになりたい方は、下欄の研究内容の問い合わせ担当者まで直接お問い合わせください。なお、この研究課題の研究対象者に該当すると思われる方の中で、ご自身の診療情報等を「この研究課題に対しては利用・提供して欲しくない」と思われた場合にも、下欄の研究内容の問い合わせ担当者までお申し出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

[研究課題名] 大腸癌イレウスに対する術前大腸ステント留置の治療成績の検討

[研究対象者] 大腸癌イレウスと診断され、2012年4月から2020年4月までに当科で術前に大腸ステントを留置し、その後大腸癌切除手術を行った方

[利用している診療情報等の項目]

性別、年齢、診断名、癌が発生した部位、併存疾患の有無、
大腸ステント留置の有無、ステント留置の技術的成功の可否、臨床的成功の可否、腸閉塞症状改善の可否、
口側大腸の検索の可否、ステント留置から大腸癌切除までの一時退院の有無と日数、ステント留置による合併症の有無、ステント追加挿入の有無術式、
大腸癌切除手術の手術時間と出血量、大腸癌切除後の術後合併症、手術到達法(開腹手術/腹腔鏡手術)、
治癒切除の可否、同時性多発癌の有無、癌の進行度(ステージ分類)、癌の根治度、再発の有無と再発部位
および診断日、最終生存・死亡確認日、死亡時の診断名 等

[利用の目的] 大腸癌手術前のイレウス(腸閉塞)に対しては、大腸ステント留置(治療)を行った後に大腸癌切除を行うことが有効と報告されています。当科における治療成績を明らかにすることを目的としています。

(遺伝子解析研究: 無)(営利企業との共同: 無)

[利用期間]倫理委員会承認後より2024年12月までの間(予定)

[この研究での診療情報等の取扱い]

本学倫理委員会の承認を受けた研究計画書に従い、お預かりした診療情報等には匿名化処理を行い、ご協力者の方の氏名や住所などが特定できないよう安全管理措置を講じたうえで取り扱っています。

[研究責任者、および、研究内容の問い合わせ担当者]

研究責任者 東京女子医科大学東医療センター外科 教授 塩澤俊一

研究内容の問い合わせ担当者 東京女子医科大学東医療センター外科 山田泰史

電話 03(3810)111 内線4155 FAX 03(3894)5493 内線 4155(応対可能時間:平日9時~16時)